

2025 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要（WEB 公開用）

高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [藤本 龍]

学年・組・番号 [1 年 F 組 40 番]

研究課題：現代社会における馬の役割—コロナ禍を経た日本競馬の構造と進化を通じて

（英文）The Role of Horses in Contemporary Society:

The Structure and Evolution of Japanese Horse Racing in the Post-COVID-19 Era

研究概要：

（研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200～400 字で記入してください）

日本は JRA 設立以降、数多くの競馬場と多くの競馬ファンを抱える競馬大国として発展してきた。COVID-19 流行期には、多くのレジャー産業が深刻な影響を受けた一方、競馬は無観客開催やインターネット馬券の活用により開催を継続し、一定の経済効果を維持した。本研究では、この特殊な状況に着目し、競馬産業の平時における経済的役割を検討する。具体的には、競馬産業への直接的影響、周辺地域への経済波及、今後の持続的発展への示唆を分析対象とする。JRA 公式データや民間資料、関係者への聞き取りをもとに、売上や観客数の時系列比較、無観客開催の影響分析、SNS 上の反応分析を行い、コロナ禍が日本競馬に与えた影響を明らかにする。

研究成果：

（研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200～400 字で記入してください）

本研究の結果概要は以下の通り。新型コロナウイルスは日本競馬界にも例外なく変化をもたらした。平時には見ることが難しい競馬界の馬券販売の体制や背景にあるファンや経済力を目に見える形で表し、本来の競馬を透き通らせた。同時に、AI や SNS のような新時代の技術力を活用した活動につながるきっかけにもなった。また、日本競馬界の圧倒的な人材不足や新規ファン、若年層のファンの獲得の難しさを明らかにした。今まで観客目線でしか捉えていなかった競馬をこの研究を通して、様々な目線から見る事が出来たのはよい進歩だと思っている。この経験を他の分野でも活用していきたいと思っているので、今後も論文を書いていきたい所存である。最後に、本研究を手伝ってくださった多くの関係者様には感謝したい。

研究者：（以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する）

研究代表者 1 年 F 組藤本 龍

研究分担者 1 年 F 組小久保 佳祐 1 年 F 組 松田 佑駕

担当教諭 松沢 徹 （受給額：15000 円）

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します
（次のページに続きます）

研究成果写真：

（研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください）



写真 1: JRA 東京競馬場東門の様子。当日は東京競馬非開催日だったため人は少なかった。(2025 年 12 月 14 日撮影)



写真 2: 地方競馬場の一例である浦和競馬場の様子。浦和競馬非開催日だったため、場内は閉鎖。コースは地元の少年たちが使用していた。住宅街の中心にある。(2025 年 8 月 30 日撮影)

以上